

チャレンジ！！オープンガバナンス 2016 市民／学生応募用紙

地域課題タイトル (注)	No. 60	タイトル ごみの減量化	自治体名 宇部市
アイデア名 (公開)	市民一人ひとりによる「生ごみの水切り」でごみを減らそう！		

(注) 地域課題タイトルは、COG2016 サイトの中に記載してある応募自治体の地域課題名を記入してください。

1. 応募者情報

チーム名 (公開)	宇部市環境衛生連合会		
チーム属性 (公開)	<input checked="" type="radio"/> 1. 市民によるチーム <input type="radio"/> 2. 学生によるチーム <input type="radio"/> 3. 市民、学生の混成によるチーム		
代表者情報	氏名 (公開)	植木啓史	

※ 公開条件について

次ページ以降の「2. アイデアの説明」でご記入いただく内容は、内容を確認した上で、クリエイティブ・コモンズの CC BY (表示) 4.0 国際ライセンスで、公開します。ただし、申請者からの要請がある場合には、CC BY-NC (表示—非営利) 4.0 国際ライセンスで公開しますので、申請の際にその旨をお知らせください。いずれの場合もクレジットの付与対象は応募したチームの名称とします。

(具体的なライセンスの条件につきましては、<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/legalcode.ja>、および、<https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/legalcode.ja> をご参照ください。また、クリエイティブ・コモンズの解説もあります。<https://creativecommons.jp/licenses/>)

(注意書き)

<応募の際のファイル名と送付先>

1. 応募の際は、ファイル名を COG2016_応募用紙_具体的チーム名_該当自治体名にして、以下まで送付してください。東京大学公共政策大学院の COG2016 サイトにある応募受付欄からもアクセスできます。admin_padit_cog2016@pp.u-tokyo.ac.jp

<公開非公開など>

2. アイデア名、チーム名、チーム属性、代表者氏名、「アイデアの説明」は公開されます。
3. 上記の公開は、内容を確認した上で行います。(例えば公序良俗に違反するもの、剽窃があるものなどは公表いたしません)
4. この応募内容のうち、「審査項目自己評価」は、非公開です。なお、内容に優れ今後の参考になりうると判断したものは、公開審査後アドバイスの段階で相談の上公開することがあります。
5. 「アイデアの説明」中に、文章、写真、図画などで応募したチーム以外に知的所有権が属する箇所がある場合には、法令に従った引用や知的所有権者の許諾を得るなどをした旨をそれぞれ注として書いてください。「審査項目自己評価」中も同様をお願いします。

<チームメンバー名簿>

6. チームメンバーは別紙のエクセルファイルに記載して提出してください。(2. の扱いによる代表者氏名を除き、他のメンバーに関する情報は COG 事務局からは非公開です。詳細は別紙をご覧ください。)

2. アイデアの説明 (公開)

データや資料を活用して課題の具体化とその解決につながるアイデア (公共サービス) のストーリーを語ってください。

(1) アイデアの内容 (公開)

アイデアは、だれがする、何をする、どこでする、いつする、どのようにするものなのかを考えて、各要素を入れて内容を描きストーリーを整理していくとよいでしょう。以下の欄内でご記入ください。（必要に応じて図表を入れても構いません）

平成 26 年度における宇部市のごみ排出量（1 人 1 日あたり）は 1,062 g で、山口県平均 1,025 g と同じであり、全国平均 947 g にも近く、この傾向は毎年ほぼ同じです。

このことは、宇部市民のごみの出し方が他の市町村と変わらないということで、市民は日頃、他の市町村の住民と同じように「ごみ減量」の努力をしているということです。

宇部市でも、ごみの再生利用やリサイクルに取り組み、資源ごみの分別などを実施し、また段ボールコンポストの利用推進やごみ減量アイデア募集などさまざまな努力を重ねています。

これまで市民も行政もあらゆる方法を既に試みていると思われるので、更に新しい方策を探すのは困難と思われます。

そこで、これまでの方策の中で更に効果を上げる得るものはないかと検討し、「水切り」について考えました。

ごみ減量の方法として、「水切り」は、子どもから大人まで、誰でもでき、お金もかからず、手間や時間も限りなく少なく、要は一人ひとりの意識によって家庭でできる減量対策です。

宇部市の調査結果では、可燃ごみの約 3 割が生ごみで、更に可燃ごみのうち約半分が水分です。水分を減少することがごみ減量に効果があることは明らかです。

「水切り」は既にある程度の家庭で行われていると思われませんが、全市民とまでは浸透していません。

「ごみを減量しなければならない」という意識の浸透により、「水切り」の実行を多数の市民に広げることがごみの減量に効果があると考えます。

宇部市環境衛生連合会（以下、環衛連と言う。）は、行政と協力して、市民の生活環境と衛生の維持・改善に努める団体で、市内 24 支部より構成されます。

各支部は、小学校の各校区に在り、それぞれの自治会やコミュニティーなどと行事を共催するとともに、独自の活動として、ゴミの出し方の研修や指導、地域の美化などを実施しています。

環衛連が宇部市と協力して、自治会、ごみ減量推進員、小中学生など各層へごみ減量の必要性を認識させ、「水切り」によるごみ減量運動をすすめることを提案します。

現在、環衛連では宇部市廃棄物対策課との協同により、市内の各小学校において年数回のゴミ削減に関する授業を実施しています。

その授業の中で、小学生に対して「水切り」の研修を行い、小学生が自ら水切りグッズを作成します。

それを家庭で使用してもらい、家族一人 1 日あたりのごみ排出量の計算法を教え、ごみ出し時に宇部市の平均値（1,062 g）と比較させるなど、子供に興味を持たせ、また子供を通じて家庭にも「水切り」を浸透させる取り組みをします。

宇部市では、一人 1 日のごみ排出量 1,062 g（平成 26 年度）を、平成 33 年度には 840 g に削減するとしています（宇部市一般廃棄物処理基本計画〈後期計画〉）ので、環衛連もこれを目標に頑張ります。

(2) アイデアの論拠（公開）

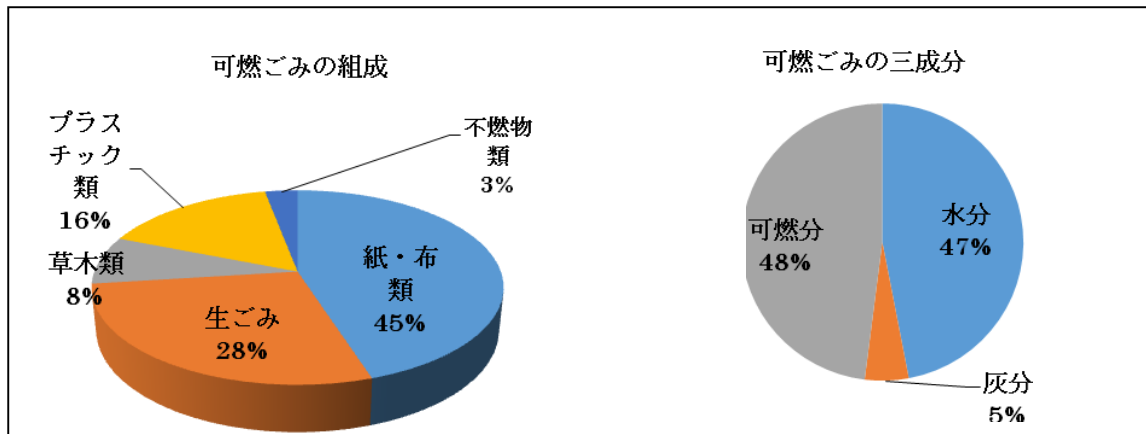
アイデアの論拠（なぜこのアイデアにするのか）を、それをサポートする数値データ（実績、統計やアンケートなど数字であらわされるもの）や証拠（資料や計画、既存の施策など）（以下：総称して「データ類」といいます）などを含めつ

つご記入ください。数値データや証拠は出所を明らかにしてください。以下の2ページの欄内におさまるようお願いします。

i) 「水切り」の徹底によるごみ減量効果

資源ごみ、不燃ごみ、可燃ごみの中で、減量可能なのは**可燃ごみ**です。

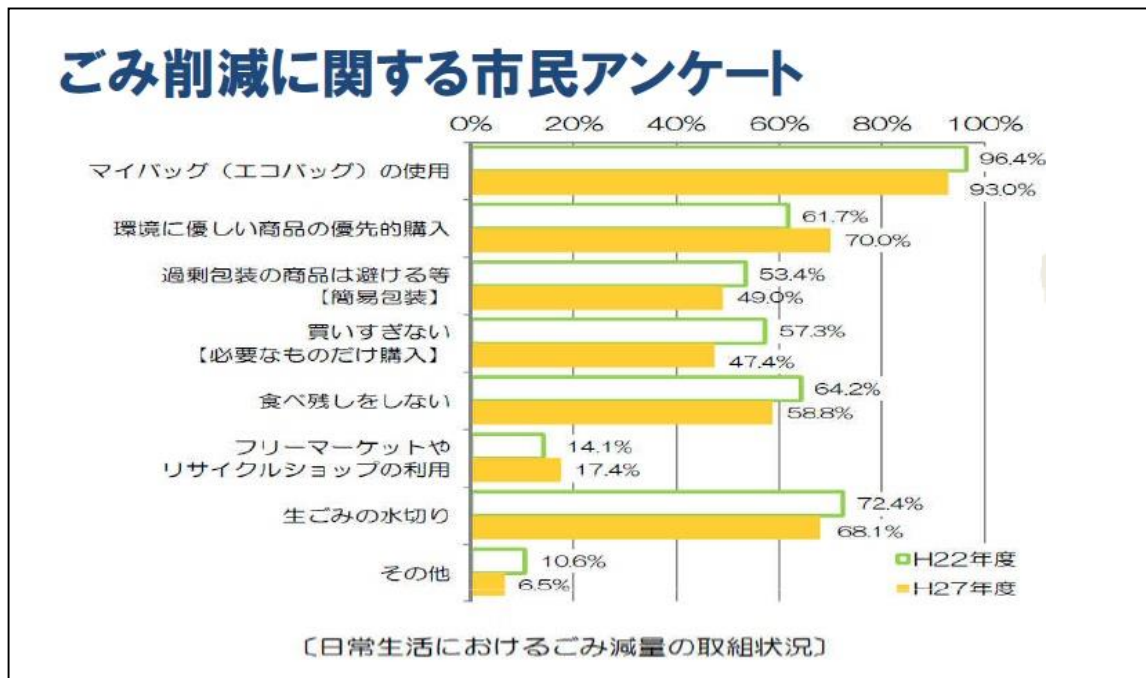
可燃ごみの組成から見ると、一番多いのは紙類ですが、紙の分別が徹底できればごみ減量に効果があります。しかし、紙類について、古紙回収日に資源として回収する分は分別できていますが、生ゴミと一緒に燃やせるごみに混入している紙類は分別不可能です。



(宇部市一般廃棄物処理基本計画後期基本計画素案 H26)

次に、可燃ごみの成分から見ると、ほとんどが水分です。

また、市民アンケートでも「生ごみの水切り」が68%と関心が高いようです。



(宇部市一般廃棄物処理基本計画後期基本計画素案 H26)

これらのことより、水分を取り除くことがごみ減量に最も効果があることが分かります。

水分を取り除くには、家庭で、生ゴミの「水切り」をします。

これは既に知られた方法ですが、アンケートでも未だ「水切り」を実行していない家庭があるし、「水切り」していると答えた家庭でも、毎回確実とはならない場合も考えられます。

「水切り」をより多数の市民に徹底することでごみの減量を進める余地があります。

ii) 市民への宣伝と実行

環衛連の24の支部、各支部はそれぞれの自治会の環境保持、衛生活動に携わり、日常的に、研修・講習などを実施しています。

従って、行政より市民に伝え易く、協力を得やすい環境にあり、この計画を実施する際、具体的な提案や反応の把握ができます。

環衛連の平成27年度実施行事は、啓発活動（本部・支部で実施）12件、環境衛生保全活動（空き缶等の回収、清掃活動など各支部で実施）101回、研修・見学（各支部で実施）40回となっています。

また、各支部には市から委嘱された「ごみ減量等推進員」（約1,200人）と連携体制が築かれているため、各支部においては、このごみ減量等推進員にも協力依頼ができます。

そして、宇部市廃棄物対策課と協同し、市内各小学校に対して年数回のゴミ削減に関する授業として段ボールコンポストに関する研修や実習を行っており、本アイデアの実現においては、この授業の場を活用して小学生に対して「水切り」に関する授業を行う事が可能です。

小中学生は早い時期からの啓発で、学生本人は勿論のこと、その家族への波及も期待できます。

小学生の場合、理屈を押し付けるのではなく、自分で役立つものを作ったり、考えたり作業することで興味を持たせることができるし、子供が作品として家に持ち帰れば家族も協力することになります。

環衛連が宇部市と協力して、市民に「水切り」の徹底を呼びかけ、全市民の実行を目指すことで、宇部市のごみ減量の政策に貢献できると考え応募しました。

(3) アイデア実現までの流れ（公開）

アイデアを実現する主体、アイデアの実現にいたるプロセスとマイルストーン等、アイデア実現までの大まかな流れについて、以下の欄内におさまるよう、簡潔にご記入ください。（必要に応じて図表を入れても構いません）

現在も小学校で行っている環境授業は、各校に対して年数回実施しています。

実施の時期や回数は毎年度、宇部市廃棄物対策課と協議して決定しているため調整が必要ですが、本アイデアの検討段階では年3回程度の授業を行えるものとします。

なお、当初は小学生・各家庭の反応もみながら実験的な進め方を行うものとし、宇部市廃棄物対策課、教育委員会等と協議のうえで、取り組む対象の小学校や学年を絞り実施します。

i) 水切りグッズのアイデア検討（授業1回目）

小学生に対する水切り教育と、小学生による水切りグッズのアイデア検討を行います。

市販の水切りグッズ等を参考にしながら、小学生のオリジナルグッズを考えてもらいます。

(a) 小学生に対して、ごみの課題、水切りの大切さを説明する。

(b) 小学生によるワークショップを行い、各班毎に作成する「水切り」グッズを決定する。

ii) 水切りグッズの製作実習（授業2回目）

授業で検討した水切りグッズのアイデアを子ども達が実際に工作によって作成します。

作成したグッズは家庭に持ち帰り、実際に使ってもらうとともに、ごみの量を測定します。

(a) 班毎に検討した水切りグッズを作成（工作）する。

(b) 作成した水切りグッズは、各家庭に持ちかえり、一定期間家庭で使用してもらうとともに日々のゴミ排出量（重さ）を測定してもらう。

水切りグッズの材料費負担は宇部市廃棄物対策課と協議する。

※現在段ボールコンポストの費用は宇部市廃棄物対策課が負担している。

iii) 結果報告・振り返り（授業3回目）

作成した水切りグッズを一定期間使用した結果を班毎にまとめ学級内で発表する。

また、より深く水切りの大切さを考えてもらうため、水切りグッズの改善点やごみ排出に対する気づきを発表してもらう。

(a) 各家庭で一定期間のゴミ排出量の測定結果を班ごとにまとめ、一人1日当たりのゴミ排出量を宇部市の平均値と比較するなどして各児童が学級内で発表する。

(b) 各班のゴミ排出量を比較するなど競争させることで児童同士の「やる気」を持続させ、優秀な班には「水切りマスター」等の表彰（賞状）をする。

iv) 上記の取組を毎年実施し、改善しながら継続するとともに対象の学校・学級を拡大する。

<<本アイデア推進の役割分担>>

環衛連・宇部市廃棄物対策課	小学生	小学生の各家庭
・小学校の授業において水切りの研修及び小学生の水切りグッズ作成を支援する。	・授業で水切りの大切さを学ぶ。 ・自ら考え工作することで水切りへの関心を高める。	・子供が作成した水切グッズと一緒に「水切り」することで、家庭（主に親世代）も、ごみ削減・水切りの必要性を理解する。

(4) そのほか（公開）

アイデアのアピールポイントや、アイデア実現に当たっての制約があればそれとその当面の解決方法、さらに将来の発展可能性（例えば「将来的に xx という制約をクリアできれば、追加で○○ということが実現できる」など）について、以下の欄内におさまるよう、簡潔にご記入ください。

「水切り」は、ごみ減量の方策として新しいものではありませんが、市民に徹底することでまだ効果を上げる余地があると考えます。

もう一つの特徴は、宇部市環境衛生連合会の組織力を活用するということです。

環衛連は、日常的に、地域でゴミ出しに関わっている市内の自治会の会長や衛生部長、ごみ減量推進員と共に活動していますから、宇部市全域に運動を広めることに最も適しています。

小中学生への働きかけは、市の教育委員会やコミュニティ・スクールなど他の組織に協力頂くこととなりますが、児童本人と更にその家族へのごみ減量の意識の浸透が期待できます。

児童が自分で考え、作ることを通じて興味を持たせること。

「水切り」グッズ作りの研修や、ゴミ出し時の計量と家族の一人1日あたりの排出量の計算などに関わることで、家族でごみ減量に取り組める機会になると思います。

更に、宇部市の廃棄物対策課に協力頂いて、ごみ減量効果が数値として市民に示すことができれば、この運動が大いに加速されます。